

図書館でグループワークをしよう！

草薙図書館では、多人数でグループワークができるスペースを設置したり、プロジェクタやノートパソコンを貸し出したりして、学生がグループで議論・発表形式の学習を行える環境を提供しています。

グループワーク
OK

- ・セミナールーム
- ・グループワークルーム
- ・LCフロア

このシートでは、グループワークでよく行われる発想を5つ紹介します。ホワイトボードとペンがあればできる簡単なものもあるので、みんなでアイデアや意見を出し合いたいという時に、参考にしてぜひチャレンジしてみてください。



グループで発想してみよう！—発想法あれこれ—

ブレインストーミング

世界的に活用されている多人数向けの発想法

【進め方】

4つのルールに従って自由に意見を述べてアイデアを出す。

【ポイント】

- ・高揚した雰囲気を作る。
- ・テーマが広い時は複数に分け、最初はやさしいテーマで行う。
- ・メンバーに下調べをしてもらう。(図書館を活用しよう！)
- ・アイデアをカードや付箋紙に書くと KJ 法などで使える。

4つのルール

- 1 判断延期・批判禁止
- 2 自由奔放・突飛さ歓迎
- 3 質より量
- 4 結合改善・他人に便乗

ブレインライティング

発言を伴わずに多人数でアイデアを発展させる発想法

【進め方】

- ①6人のメンバーに対して1つのテーマを設定する。
- ②3つのアイデアを5分で考えてシートに書き、左隣の人に回す。
- ③前の人のアイデアを読んだ上で、5分で自分のアイデアを書く。
- ④書いたらまた左隣の人に回し、全員回るまで繰り返す。

【ポイント】

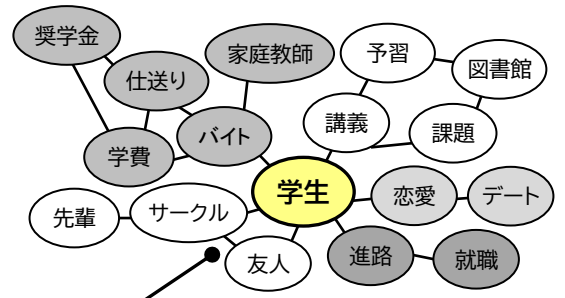
- ・シートの記入欄を増やせば6人以上でもできる。
- ・空欄で回さず、発展させられない時は新たなアイデアを書く。
- ・前の人、特に最初のアイデアを発展させるつもりで考える。

	テーマ	図書館の利用活性化策	
	アイデア A	アイデア B	アイデア C
1	資料充実	リフォーム	民間委託
2	小説多く	カフェ設置	ツタヤ委託
3	電子書籍	開放的空間	SNS 活用
4			
5	発展させた時は矢印を、新たなアイデアの時は線を境目に書く		
6			

ウェビング法 テーマを広げ、その広がりの中に関連性を発見する発想法

【進め方】

- ①テーマをホワイトボードや紙の中心に書く。
- ②その周囲にテーマから連想した言葉を書く。
- ③その言葉からさらに連想し、外側に言葉を書いていく。
- ④関連するものを、クモの巣(ウェブ)のように線で結ぶ。



「学生」というテーマの広がりど、その中にある「学生の間関係」などのサブテーマを発見できる

【ポイント】

- ・テーマは出来るだけ具体的なものにする。
- ・カードや付箋紙に書いて、それを貼っていても良い。

マンダラート 1人でも多人数でもできる手軽な発想法

【進め方】

- ①ホワイトボードや紙に3×3のマス目を書く。
- ②中心のマスにテーマを記入する。
- ③周りの8つのマスに連想した言葉や文章を書く。
- ④③で連想したものを新しいマス目の中心に書いて繰り返す。

富士山	駿河湾	みかん
お茶	静岡県	温泉
ウナギ	地震	浜名湖

訓練	津波	原発
震度	地震	火災
突発的	備え	避難

「静岡県」というテーマから連想した「地震」を抜き出してさらに連想していく

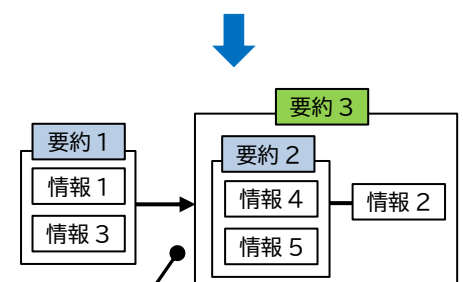
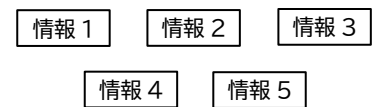
【ポイント】

- ・8つのマスは必ず埋める。
- ・複数作成した時は、発想の広がりや深まりを確認しながら並べる。
- ・多人数でやる場合は、それぞれが作成したものを交換しあう。

KJ法 情報やアイデアの組み合わせを通して新たな発見を得る発想法

【進め方】

- ①調査や発想法で集めた情報やアイデアを1件ずつカードに書く。
- ②カードを並べてよく読み、似ているものをグループ化する。
- ③グループが出来たら、その内容を要約した表札カードを書く。
- ④表札カードを上にして束ね、②③を繰り返してまとめていく。
- ⑤まとめたものを紙やホワイトボードに配置し、図解する。
- ⑥図解から分かったことを文章化したり、発表したりする。



似ていると感じた情報をグループ化してまとめ、図解し、文章化する

【ポイント】

- ・既存の概念ではなく、類似性を見出してグループ化する。
- ・余ったカードは無理にまとめず1枚を1グループとする。
- ・図解化では、グループを線で囲み、その関係性を図示する。

《参考文献》

星野匡、『発想法入門』、第3版、日本経済新聞社、2005。 中西泰人、岩崎博論、佐藤益大、『アイデアキャンプ』、NTT出版、2011。
東千秋、柴山盛生、遠山紘司、『問題解決の発想と表現』、放送大学教育振興会、2004。